

「T I C A D 3 0 周年記念行事」

高木政務官 閉会挨拶

(令和5年8月26日)

御列席の皆様、本日はどうもありがとうございました。外務大臣政務官の高木啓です。日本政府を代表し、閉会の挨拶としていくつか、本日のイベントの振り返りをさせていただきます。

本日は多様なパネリストの方々にご登壇いただき、大変有意義な議論がなされました。T I C A Dの強みは、一過性のものではなく、絶え間ないプロセスであることです。本日のイベントは、そのプロセスを一旦振り返り、これからのT I C A Dについて深く考える機会となったと思います。

パネル1では、これまでのT I C A Dの歩みを振り返りました。オーナーシップとパートナーシップの精神の重要性、多様なアクターの取組を促すプラットフォームとしての機能の有用性が確認されると共に、T I C A Dを活用し、貧困撲滅、民間投資の促進等について、更に取組を加速する必要があるとの認識で一致しました。

続いてパネル2では、援助から民間投資重視への流れを中心にT I C A Dをいかに活用できるか、課題と戦略について議論しました。アフリカ企業と日本企業のマッチング、ハード、ソフト及び人

材のインフラ等の支援の必要性、持続可能な発展の伴走者としての支援、アフリカにおけるグリーン成長の促進の重要性などが指摘されました。

最後に、パネル3では、現下の厳しい国際情勢を踏まえ、T I C A Dが将来どうあるべきかについて議論しました。

T I C A Dを国際的なプラットフォームとし、気候変動・食料安全保障などの地球規模課題への旗振り役として活用すること、人材育成・技術移転やスタートアップとイノベーションの重要性、オールジャパンでの取組の必要性などが指摘されました。そして何より、まずはアフリカに行こうと思ってもらいたいとの発言に、私も大いに共感しました。

2050年には世界の人口の4分の1を占めると言われるアフリカ、日本はそのアフリカと「共に成長するパートナー」として、T I C A Dで積み上げてきた30年の歩みを、一層力強いものにしていく必要があります。

本日のT I C A D 30周年行事は、日本とアフリカが共に成長していく、その先を見据え、次の世代に何を託していくのかを考えることが重要なテーマでありました。T I C A Dの未来とは、すなわち日本とアフリカの未来です。

このイベントを締めくくるにあたり、アフリカと日本の未来を担う新しい世代の方々をお招きしています。

若い世代が手を取り合い、共に成長を目指す未来は、既に始まっています。

日本とアフリカの未来は彼らにかかっています。今後も日本とアフリカが、世代や分野を超えて、共に歩んでいくことのできるプラットフォームとしてしっかりとT I C A Dを位置付けていくこと、これが大切ではないでしょうか。そのために、時代の変化に合わせ、皆様と共に、課題を一つ一つ克服してまいりたいと思います。

来年、ここ東京の地で、T I C A D閣僚会合を開催します。そして、再来年の2025年には、横浜でT I C A D 9が開催される予定です。

皆さま、そして更に次の世代と、また再び一堂に会することを祈念して、ご挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。